

企業名	株式会社wead	金融機関名	株式会社伊予銀行
-----	----------	-------	----------

知財・事業の概要および知財ビジネス報告書作成の目的

その他(研究開発)

商標・ノウハウ

- 当社は、従来の生ごみだけでなく、紙資材や生分解性プラスチックなども迅速に分解できる独自の微生物資材「greevy」を開発し、「ごみを捨てるという概念自体を捨てる」、世界を目指している。
- greevyのノウハウ保護と適切な権利化を進めることで、技術流出のリスクを抑えつつ、事業の信頼性と競争優位性を高め、今後の事業の加速化および新たな連携機会の創出のため、知財ビジネス報告書の作成に取り組んだ。



wead社のコア知財である
高速分解促進剤「greevy」

知財ビジネス報告書への記載概要

過去～現在 (As-Is)	知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する	- 当社は、コーヒーかす等の自然由来廃棄物を独自に配合し、これまでにない分解速度を実現した分解促進剤「greevy」の開発に成功。 - 近年では食品ロス削減法・ESG報告義務の強化が進み、企業に廃棄物管理の効率化、CO2削減が義務化されたり、廃棄処理費用、農業資材、バイオマス資源の高騰化等による世界情勢を加味すると、既に実証実験での成功例があるgreevyは、今後市場での魅力は充分にあると考えられる。
	将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する	- 市場での魅力が充分にあるgreevyではあるが、配合技術等に関するコア技術は容易に公開できない秘密情報のためノウハウ化しているが、今後大量生産や海外展開を視野に置くならば、営業秘密管理体制の整備が早急に必要である。 - また、安定性・持続性の強化のため、サービスパッケージを確立した上でサブスク顧客件数を増加していく取り組みが必要である。
現在～将来 (To-Be)	将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する	- 営業秘密管理体制の強化についての見直し、委託先である関連会社と協議するノウハウ維持の現実性について検討し、必要なタイミングで特許化の実施。 - また、上記に伴い営業計画、営業ツールの整備を進め、サービスパッケージ・フォローアップ内容を詰めることで、greevyのサブスク顧客件数増加を狙う。

作成を支援した 機関名・氏名	弁理士法人C&N 延平 修一 氏 延平 涼 氏
-------------------	-------------------------

株式会社伊予銀行からの評価結果

知財ビジネス報告書 を通じて認識した強み	改めて認識した点	「保有知財の分析・評価」に記載のあるとおり、当社保有の難分解性ごみの分解を促進させる高速分解促進剤「greevy」に関する技術は特許と社内秘密情報によって保護されており、従来焼却・埋立てされていた「分解しにくいごみ」を素早く分解・減容し、資源として再活用が可能になる社会問題解決可能な技術を保有されていることが強みであると改めて認識した。
	新たに認識した点	当社保有の「greevy」に関する技術は、生ごみだけでなく、生分解性プラスチック資材、紙廃材、もみ殻といったこれまで「燃やす／埋める」が前提だったものも分解・資源化の方向に転換する活用が進められており、共同研究などが増えている状況は、今後の当社の技術力向上や売上高増加の点で強みであると認識した。
知財ビジネス報告書 を通じて認識した課題	改めて認識した点	当社保有の「greevy」に関する技術は、特許と社内秘密情報によって保護されているものの、今後従業員の増員や外部企業や研究機関との共同研究なども増加するために、機密情報保護に対する対策が課題の一つであると認識した。
	新たに認識した点	今後の展開として収益化のためにはサブスクを増やすことが必要となるため、事業規模の拡大に向けた社内体制構築が課題であると認識した。
将来のビジネス展開に向け金融機関としてサポートできる点	- 令和7年度中小企業等知的財産支援地域連携促進事業費補助金を活用した当行グループ主催の「売れる商品は知財から！新たなビジネスチャンスを見つけるヒット商品づくり実践セミナー」を通じ、自治体との事業連携をマッチング中。 「greevy」の活用可能性は未知数だが、食品メーカーをはじめとする取引先企業とのマッチング等についても検討。 - 今後の研究開発に際し、Go-Tech事業や国や県の研究開発関連補助金の紹介、公的機関等との連携も検討。	

株式会社weadからのコメント

知財ビジネス報告書の作成を通じて得られた新たな気づきがあったか	ビジネスモデルや将来図の作成、競合比較を行い俯瞰して見ることで、新たな気づきを得ることができた。
知財ビジネス報告書をどう活用できそうか	融資の際等の金融機関への資料提出として活用していきたい。